

## 密輸取締りの状況について

# 最近の社会悪物品等の密輸動向と 監視取締り強化について

### 関税局監視課

覚せい剤や麻薬をはじめとする不正薬物の乱用問題は、いまや世界の国々で深刻な政治・社会問題となっている。我が国においても、特に覚せい剤の乱用は、昭和20年代後半、昭和50年代後半に続く第3次覚せい剤乱用期と言われており、青少年、特に中、高校生の覚せい剤事犯検挙人員は依然として高い水準にあるなど、極めて憂慮すべき状況にある。また、けん銃等を使用した凶悪事件数も高水準で推移している。

こうした中、政府は平成15年12月、「世界一安全な国・日本」の復活に向けて、「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」を策定した。

関税局・税関では、不正薬物・銃器等の社会悪物品の国内流入を阻止することを最重要課題の一つとして位置づけ、日夜、積極的な密輸取締りを行っている。

【主な社会悪物品の密輸摘発実績】

種類		年		平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	前年比
		件	kg						
覚せい剤	件	39	57	42	20	76	380%		
	kg	1,450	886	202	408	327	80%		
大 麻	件	255	303	214	276	355	129%		
	kg	723	485	797	476	766	161%		
大麻草	件	155	217	166	191	233	122%		
	kg	529	343	744	261	436	167%		
大麻樹脂	件	100	86	48	85	122	144%		
	kg	193	143	53	215	330	154%		
ヘロイン	件	13	14	11	15	9	60%		
	kg	1	6	5	19	5	26%		
コカイン	件	10	12	7	12	11	92%		
	kg	4	7	18	14	0	1%		
あへん	件	8	5	2	3	2	67%		
	kg	7	5	8	2	4	220%		
MDMA	件	26	36	44	35	43	123%		
	千錠	18	85	118	172	368	214%		
向精神薬	件	167	89	96	89	58	65%		
	千錠	141	62	90	60	16	27%		
合 計	件	518	516	416	450	554	123%		
	kg	2,186	1,389	1,030	918	1,104	120%		
	千錠	159	147	208	233	385	165%		
銃 砲	件	13	9	2	8	9	113%		
	丁	40	123	21	13	12	92%		
銃砲部品	件	2	0	2	3	7	233%		
	点	2	0	12	4	13	325%		

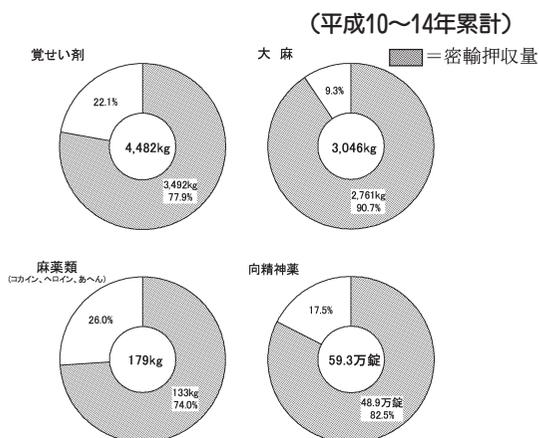
## 1. 最近の社会悪物品の密輸動向について

### (1) 密輸摘発実績

昨年の不正薬物の密輸押収量は約1.1トンと2年ぶりに1トンを上回る大量押収となり、特に、大麻樹脂やMDMAの押収量は過去最高を記録するなど、極めて憂慮すべき状況にある。

我が国で押収される不正薬物のほとんどが外国から密輸されていることに鑑みれば、国内へ流入する前に水際で阻止することが最も効果的な取締り方法と言える。平成10年から14年までの5年間に国内で押収された不正薬物の総量に占める密輸押収量の割合を見ると、覚せい剤が約78%、大麻が約90%となっており、水際における密輸取締りの重要性を裏付けるものと言える。

#### 国内押収量全体に占める密輸押収量の割合



(注) 密輸押収量には、税関が押収した密輸事件に係る押収量のほか、警察等他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものに係る押収量を含む。

### (2) 最近の密輸事犯の特徴

最近の不正薬物の密輸事犯の特徴としては、大麻樹脂及びMDMAの押収量が過去最高を記録したことや、摘発件数が大幅に増加していることが挙げられる。

また、我が国で乱用されている薬物の中心を占める覚せい剤及び大麻の仕出地を見ると、覚

せい剤については、過去5年間では中国と北朝鮮が大半を占めているが、昨年は、過去に大口の密輸事犯の摘発がなかったカナダやマレーシア、最近大口密輸事犯の摘発がないフィリピンを仕出地とする事犯が相次いで摘発されている。また、大麻については、ネパール、インド等を中心とする南アジア地域、オランダを中心とするヨーロッパ地域、南アフリカ、ナイジェリア等のアフリカ地域が最近の主要な仕出地となっている。

## 2. 社会悪物品等の密輸取締り強化に向けた主な対策

近年の社会悪物品等の密輸手口としては、コンテナ貨物や国際郵便への隠匿をはじめ、海上で外国の船舶から漁船に積み替えて陸揚げを図るといった大胆な手口、ビジネスマンを装った旅客のスーツケースの二重底工作や身体への巻き付け等の巧妙な手口のほか、麻薬等を小分けにして包んだものを飲み込んだり、老若男女を問わず運び屋に仕立てるなど、税関の目をくぐりぬけようとする悪質・巧妙な密輸事犯が後を絶たない状況にある。関税局・税関では、密輸事犯の続発やこのような密輸手口の悪質化・巧妙化に対し、次のような対策を講じ、水際における密輸阻止に努めている。

### (1) 密輸情報の収集・分析の強化

輸入貨物量が年々増加している中で、限られた人員で社会悪物品等の密輸を効率的かつ効果的に取締るためには、情報分析等によって得られるリスクの度合いに応じて検査の対象を絞り込むことが極めて大切である。

税関は、警察や海上保安庁等の国内の関係機関や外国税関等と、様々な場を通じて日常的に

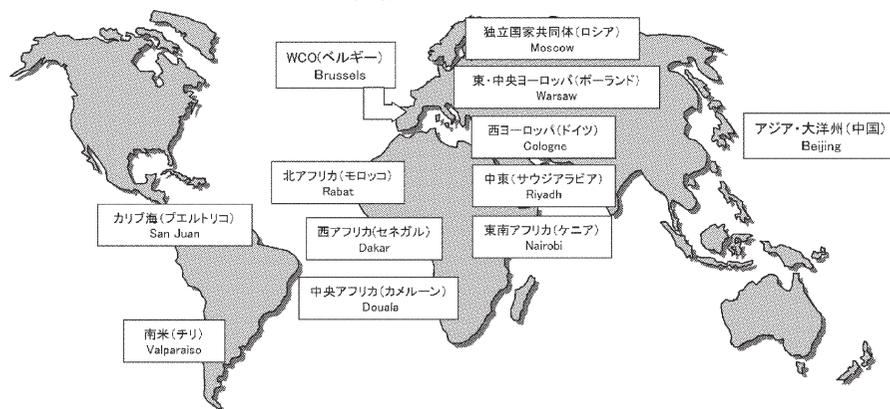
情報交換を行っているほか、関係業界や一般の国民の方々からの有益な情報の入手に努めているところである。また、過去の摘発事例・手口等を詳細に分析するとともに、関係機関や外国

税関等からの情報も加味して、社会悪物品の密輸に使われる可能性が高いルートや貨物等を見極め、水際での密輸取締りに活用している。

#### 【国際情報交換ネットワーク】

国際的な密輸情報交換を推進するために活発に活動している組織として、「RILO」（ライロ）がある。「RILO」とは、Regional Intelligence Liaison Office（地域情報連絡事務所）の略称であり、各地域の税関間における密輸関連情報交換の活性化や情報分析の強化等を目的とするWCO（World Customs Organization：世界税関機構）の地域プロジェクトの拠点として世界11ヶ所に設置されている。我が国が属するアジア・大洋州 RILO は、現在、中国がホストしているが、我が国は、平成11年から5年間ホストするなど、その情報交換ネットワークの積極的な活用を図っている。

RILO（地域情報連絡事務所）ネットワーク



## ② 取締機器の増強

麻薬探知犬、X線検査装置、監視カメラシステム等の取締機器は、効率的かつ効果的な密輸取締りを実施する上で欠かせないものであり、平成13年2月からは、コンテナをトレーラーに載せたままX線検査ができる大型X線検査装置を、主要港に順次導入している。関税局・税関においては、こうした取締機器の増強に努めるとともに、最新の科学技術を活用した新たな機器の研究、開発、導入を積極的に推進している。

## 3. その他の密輸動向と税関による水際取締り

不正薬物等の社会悪物品のほか、近年、盗難自動車等の不正輸出や偽ブランド等の知的財産権侵害物品、偽造クレジットカード等の不正輸入の摘発も増えており、大きな社会問題となっている。

関税局・税関としては、円滑な国際物流と人の往来を阻害することのないよう配慮しつつ、関係業界や国民の方々からの情報収集を強化し、また、警察や海上保安庁等の取締関係機関との連携を強化すること等を通じて、水際での効果的な密輸取締りを推進していくこととしている。